

LAN SOFTWARE & DATA

INTERNET 公認ガイドブック

ABILITY2.0 ガイドブック

基本操作から使いこなしまで

FOR
WINDOWS

平賀宏之

バージョン
2.5 差分

Stylenote

CONTENTS

まえがき / 4

第16章

ABILITY 2.5の新機能

- 1 ABILITY 2.5とは 6
- 2 選択可能になった音符の旗のつなぎ方の描写方法 9
- 3 譜面作成エディタにおける小節幅の調整 10
 - 小節幅の調整 / 10
 - 小節幅のリセット / 12
- 4 見やすく進化したピアノロールビューの表示方法 13
 - コードの構成音で背景色を色分け / 13
 - ドラムマトリクスモードでの楽器名編集 / 15
 - ドラムマトリクスモードでの楽器名セットの保存と削除と呼び出し / 16
- 5 直感的に操作できるステップシーケンサーのVelocity編集 17
- 6 チャンネル入れ替えと位相反転 20
 - 選択範囲の拡大縮小 / 20
 - チャンネル入れ替え / 22
 - 位相反転 / 23
- 7 強化されたミキサーの機能 24
 - GROUPトラックの出力先に他のGRUOPトラックを選択 / 24
 - マウスオーバー時の各コントロールの操作 / 25
- 8 チャンネルストリップのEQ/COMPセクション設定 27
 - 新規作成時 / 27
 - トラック追加時 / 28
 - デフォルトのEQ/COMPをまとめてクリア / 30

9	スコアと波形が表示されるようになったメディアブラウザのフレーズ機能	31
	■ メディアブラウザのプレビュー画面	31
10	コントロールレーンでのコントロール入力方法の選択	33
	■ コントロール入力方法の選択	33
	■ コントロールレーンの縦幅の拡大縮小	34
11	前回の表示位置、サイズで開くようになった各エディター	35
12	拍子を設定して小節を挿入する	36
13	追加されたプラグインシンセ	38
	■ LinPlug MorphoX	38
	■ LinPlug Octopus	40
14	SPTIモードやDDP出力に対応したCD作成機能	42
	■ SPTIモードへの切り替え方法	42
	■ CD作成機能	43
	■ DDPへの出力	45

まえがき

株式会社インターネットから発売されている ABILITY シリーズに最新バージョンである ABILITY 2.5 Pro / Elements が登場しました。ABILITY 2.5 Pro / Elements は ABILITY 2.0 Pro / Elements のアップデート版であり ABILITY 2.0 Pro / Elements をお使いの方であれば誰でも無償でアップデートができます。国産 DAW ならではの使いやすさが特徴のソフトになります。

この PDF は ABILITY 2.0 Pro / Elements のガイドブックとして発売されている「ABILITY2.0 ガイドブック」の差分 PDF として制作させていただきました。

ABILITY 2.5 にバージョンアップして追加された新機能などを中心にご紹介しています。ABILITY 2.0 Pro / Elements をお使いの方はバージョンを 2.5 にアップデートされる際の参考に、またすでに ABILITY 2.5 Pro / Elements にアップデートされた方は新機能の操作方法のガイドとしてご活用いただければと思います。

またこの PDF をお読みになられて本書「ABILITY2.0 ガイドブック」にご興味を持たれましたら書籍の方も手にとっていただければ幸いです。



第16章

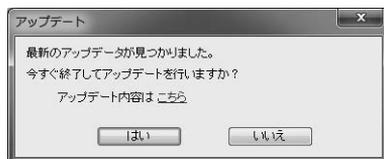
ABILITY 2.5の新機能

ABILITY 2.5とは

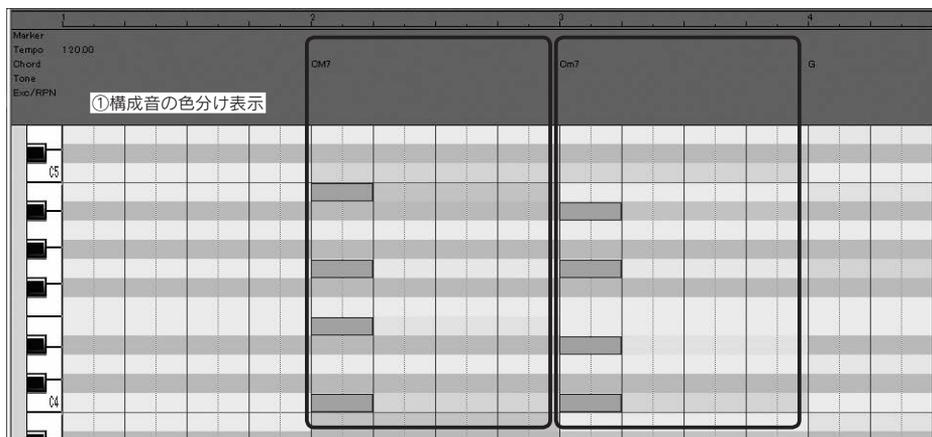
ABILITY 2.0 Pro、ABILITY 2.0 Elements のアップデート版である ABILITY 2.5 Pro、ABILITY 2.5 Elements が発表されました。バージョン 2.0 を使っている方は無償でバージョン 2.5 へアップデートをすることができます。

バージョン 2.5 へのアップデート方法は、ABILITY 2.0 Pro、ABILITY 2.0 Elements がインストールされているパソコンをインターネットに接続しておくことで、オンラインアップデートによって自動でアップデートされます。

オンラインアップデートはソフトの起動時にアップデートがある場合、ダイアログで表示してアップデートをナビゲーションしてくれる機能です。



バージョン 2.5 では普段よく使用する画面の表示の仕方や各種操作の方法などがより使いやすく進化しています。ピアノロールビューではコードトラックに入力したコード名に合わせて構成音を色分けで表示することが可能になったり (①)、譜面ビュー／楽譜作成エディタでは音符の旗の繋ぎ(連符)の描写方法を水平に切り替えることもできるようになりました (②)。ステップシーケンサーではベロシティパレットが追加されたり (③)、マウスでドラッグすることでベロシティを一度に変更できるようになったりと (④)、より直感的な操作が行えるようになっています。



Marker
Tempo 120.00
Chord
Tone
Exc/RPN
MIDI 1

②旗の繋ぎ (連桁) を水平に表示

ステップシーケンサー 10:MIDI 10 - [test.abi]

M10: StepSeq0001 BEAT 4 STEP 4 GT 90 VEL 100

③ベロシティバレット

④ベロシティの変更

Vel:118

さらに ABILITY 2.5 Pro 限定ですが、CD プレス用の納品フォーマットの1つである DDP で出力ができるようになりました。さらに、LinPlug 社製のプラグインシンセも新たに2台追加されました。モジュレーションホイールを操作することで簡単にモーフィングサウンドを作り出すことのできる「LinPlug MorphoX」と、8つのオシレーターを持つデュアルマトリクス方式の「LinPlug Octopus」というシンセサイザーです。どちらのシンセサイザーも音の抜けがよく存在感のある音色が魅力的です。



次の項目より、より使いやすく進化した ABILITY 2.5 Pro、ABILITY 2.5 Elements のアップデート内容をご紹介します。

SECTION

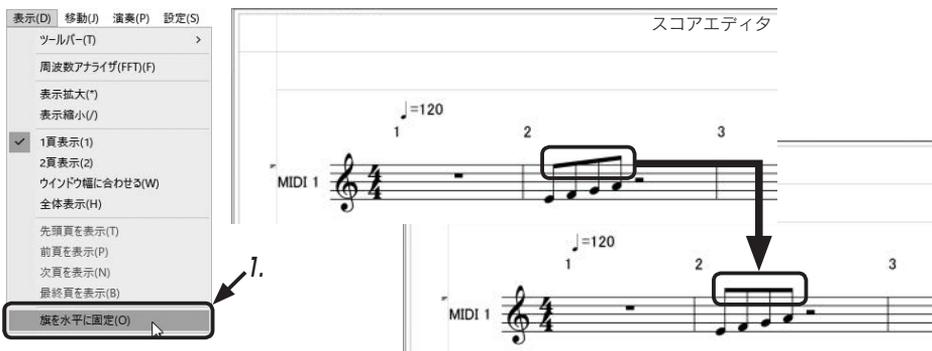
2

選択可能になった 音符の旗のつなぎ方の描写方法

スコアエディタと譜面作成エディタにおいて音符の旗のつなぎ方の描写方法が選べるようになりました。今までは音符の旗は斜めに描写されていましたが、音符に合わせて水平に描写することも選択できます。選択した旗の描写は開いているプロジェクト全体に反映されます。

手順

1. メニューバーの「表示」→「旗を水平に固定」を選択すると旗のつなぎ方の描写が水平になります。



もう一度メニューバーの「表示」→「旗を水平に固定」を選択してチェックマークを外すことで斜めの描写に戻ります。

HINT

「旗を水平に固定」を選択した状態でプロジェクトを保存すると、次回そのプロジェクトを開いた時も「旗を水平に固定」が反映された状態で開きます。



譜面作成エディタにおける 小節幅の調整

譜面作成エディタで小節の幅を調節することができるようになりました。段ごとでそれぞれの小節が占める幅の割合を変えて調節されます。例えば1段に4小節あったとすると、1つの小節の幅を広げると残りの3小節の幅は狭くなるといった具合です。どこかの小節の幅を広げるとその分、他の小節の幅は狭くなりますが、16分音符などの細かい音符が多い小節などでは小節の幅を広げてあげることで全体的に見やすい譜面を作ることができます。

■ 小節幅の調整

手順

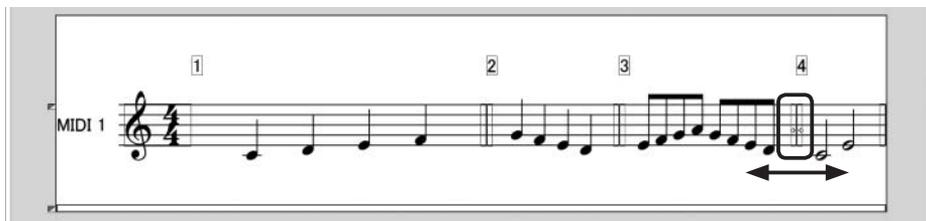
1. 幅を広げたい小節の右側の小節線をドラッグします。

The diagram illustrates the process of adjusting the width of a measure in a music score editor. It shows two examples of a 4-measure staff in 4/4 time. In the first example, measure 2 is selected, and its right boundary line is being dragged to the right, as indicated by an arrow and the text "1. ドラッグ". In the second example, the same staff is shown after the adjustment, with measure 2 being wider and measures 1, 3, and 4 being narrower. A second staff below shows measures 5 through 8.

HINT

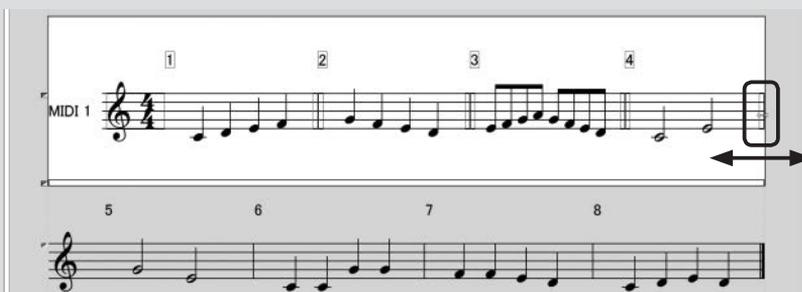
小節線をドラッグすると、操作している段以外はグレーになります。

他の小節の小節線も動かして全体のバランスをとっていくこともできます。

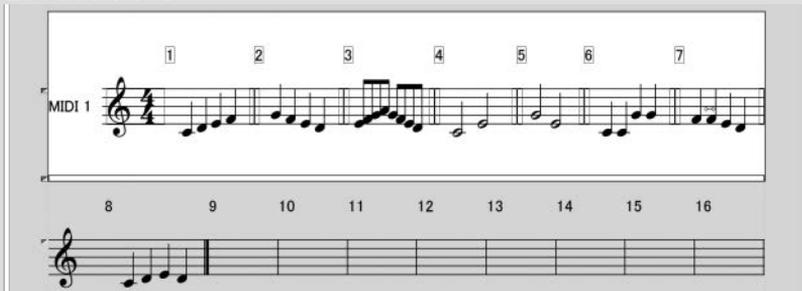


HINT

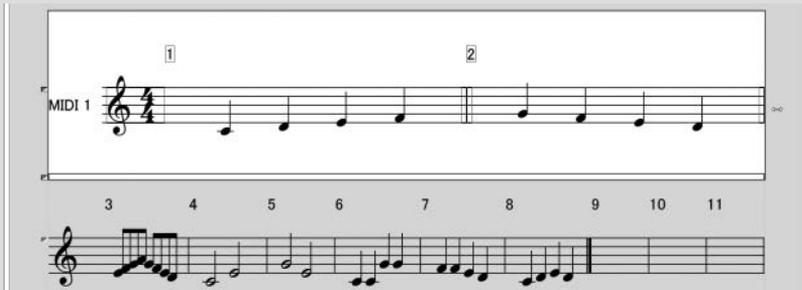
段に表示されている一番右の小節線を左右にドラッグすることで、その段に表示する小節数を増減できます。



左にドラッグした場合



右にドラッグした場合



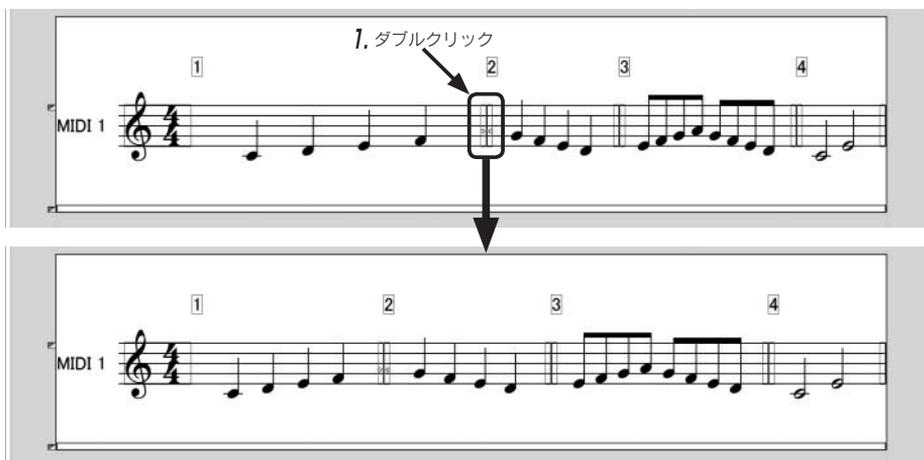
■ 小節幅のリセット

変更した小節幅を最初の状態に戻すには、状況に応じて2通りの方法があります。

手順

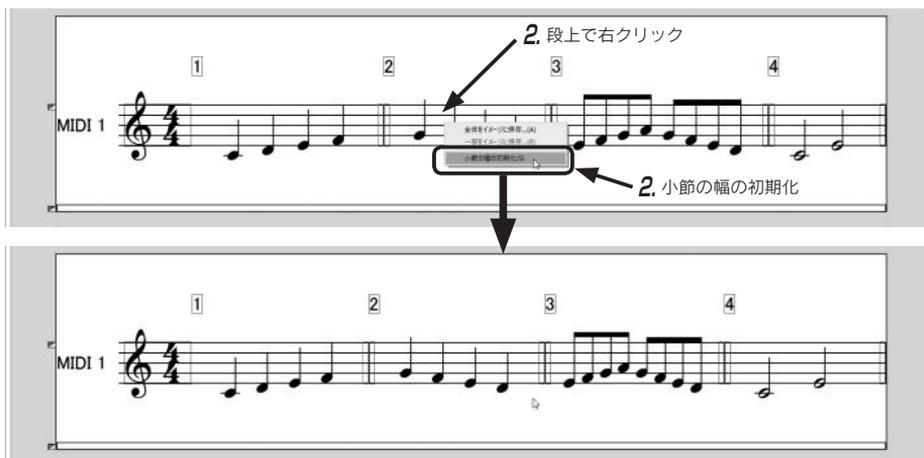
1. 小節単位の場合

小節線をダブルクリックするとその小節の小節幅が初期の位置に戻ります。



2. 段単位の場合

段の上で右クリックして表示されるメニューから「小節の幅の初期化」を選択するとその段の小節幅が初期の状態に戻ります。



SECTION

4

見やすく進化した
ピアノロールビューの表示方法

16

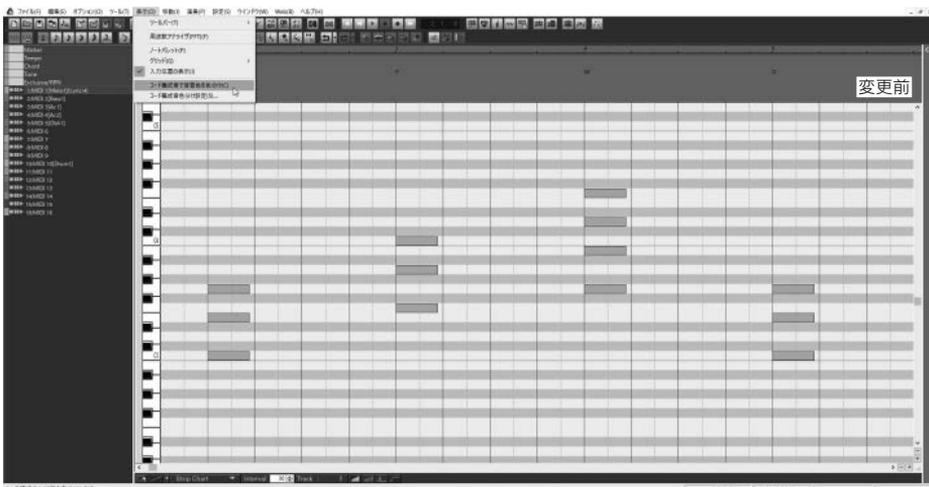
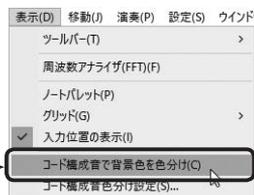
ピアノロールビューではコードトラックのコードの構成音を背景に色分けして表示したり、ドラムマトリクスモードで表示される楽器名を変更、保存することができるようになりました。

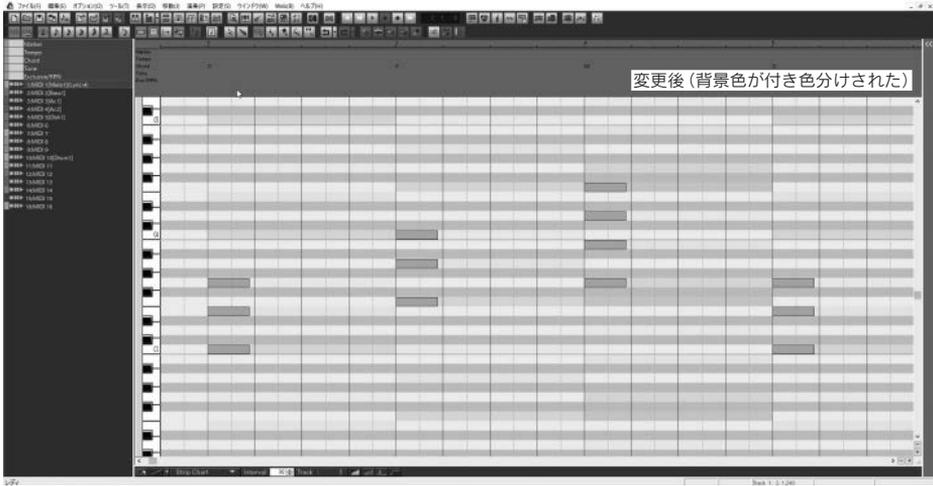
■ コードの構成音で背景色を色分け

コードトラックに書かれたコード名の構成音を色分けしてピアノロールの背景に表示できるようになりました。色分け表示されるのは最大4色までで、それぞれのコードの「ルート音」「第3音」「第5音」「第6音/第7音」になります。CやDmなどの3つの音で構成されている3和音の時は3色で色分けされて表示されます。

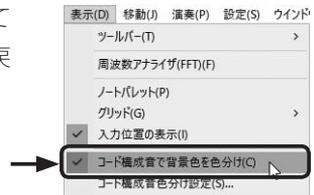
手順

1. メニューバーの「表示」から「コード構成音で背景色を色分け」を選択します。





もう一度「コード構成音で背景色を色分け」を選択して
チェックマークを外すことで色分け表示がもとの表示に戻
ります。



コード構成音色分け設定

コード構成音色分けの色設定は自由に変更できます。

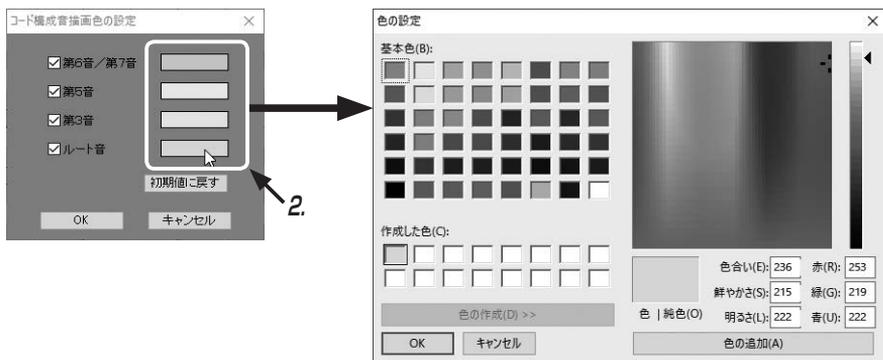
手順

1. メニューバーの「表示」から「コード構成音色分け設定」
を選択し、「コード構成音描画面色の設定」画面を開きます。
「ルート音」「第3音」「第5音」「第6音/第7音」
の左側のチェックボックスでチェックを入れた音だ
けが色分け表示されます。チェックを外すとその音
が色分け表示されなくなります。



2. 「ルート音」「第3音」「第5音」「第6音 / 第7音」の右側の色をクリックして「色の設定」画面を開きます。

この画面からそれぞれの色を変更することができます。

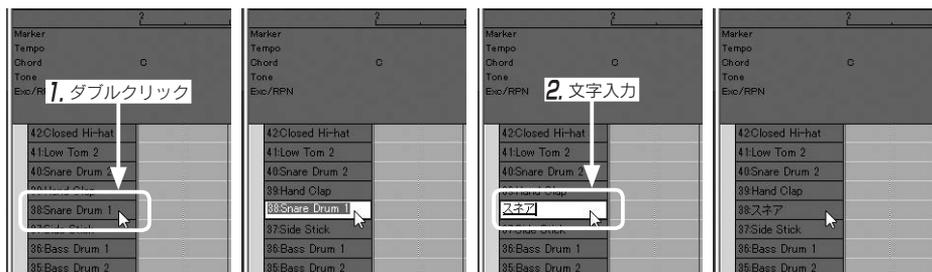


■ ドラムマトリクスモードでの楽器名編集

ドラムマトリクスモードで表示されている楽器名が自由に編集できるようになりました。半角英数だけでなく、日本語での入力にも対応しているので自分専用の楽器名セットを作ることができます。

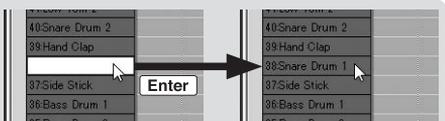
手順

1. 編集したい楽器名の上でダブルクリックします。
2. パソコンのキーボードで新しい名前を入力します。



HINT

楽器名を初期の状態に戻したい場合は、入力されている文字をすべて削除してパソコンの **[Enter]** キーを押すことで戻せます。



■ ドラムマトリクスモードでの楽器名セットの保存と削除と呼び出し

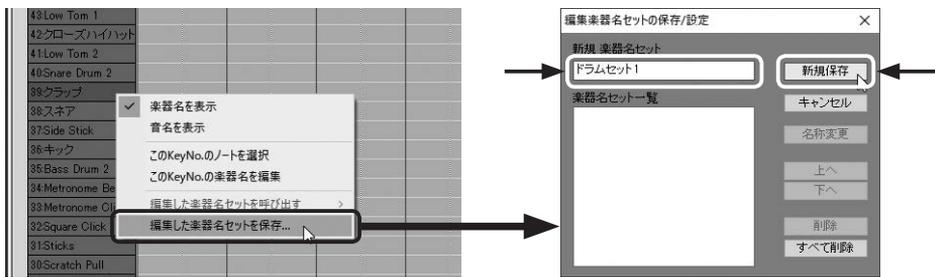
楽器名を変えたセットを保存することができます。保存しておくことで他のプロジェクトなどでも呼び出して使うことができるようになります。

手順

1. 保存する場合

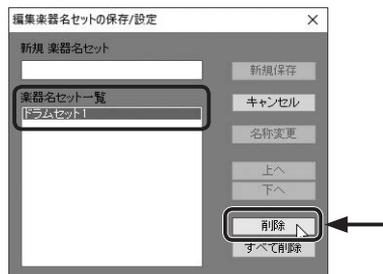
楽器名が書かれたエリアの上で右クリックすると表示されるメニューから「編集した楽器名セットを保存」をクリックし「編集楽器名セットの保存/設定」画面を開きます。

保存するセット名を「新規 楽器名セット」に入力して「新規保存」ボタンをクリックすると保存されます。



2. 削除する場合

保存したセット名を削除したい場合は「楽器名セット一覧」から削除したいセット名を選択して「削除」ボタンをクリックすると削除されます。



3. 楽器名セットを呼び出す場合

楽器名セットの呼び出しは、楽器名が書かれたエリアの上で右クリックすると表示されるメニューの「編集した楽器名セットを呼び出す」から保存した「楽器名セット」を呼び出すことができます。



SECTION

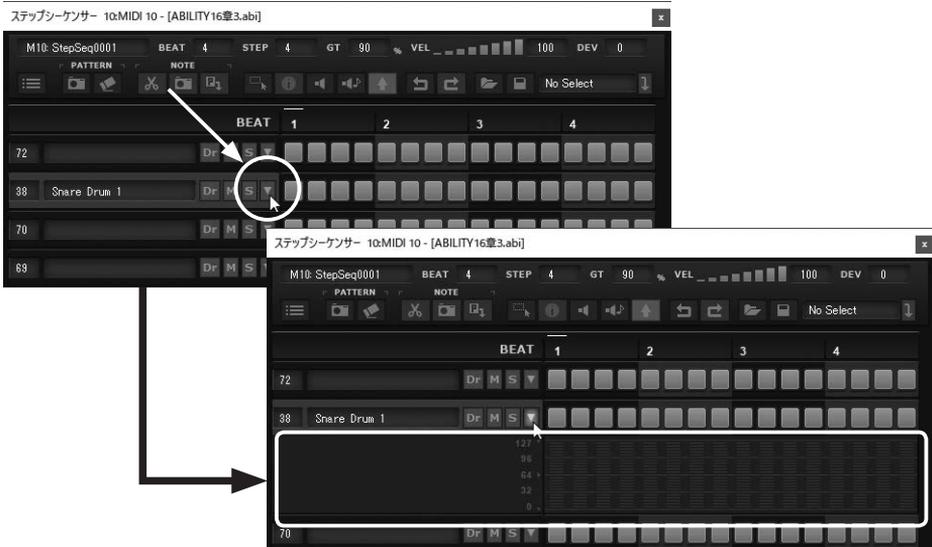
5

直感的に操作できる
ステップシーケンサーのVelocity編集

ドラムパートのリズム入力などに便利なステップシーケンサーのベロシティ編集がより使いやすいものへと進化しました。音を入力する際の音の強さを段階的に分けたベロシティパレットが搭載され、入力した音のベロシティはマウスのドラッグでまとめて変更できるようになっています。フィルインなどで連打するスネアドラムなどはステップシーケンサーのパターンを再生させながらマウスのドラッグでまとめてベロシティを変更することで、より直感的にリズムを作っていくことができます。

手順

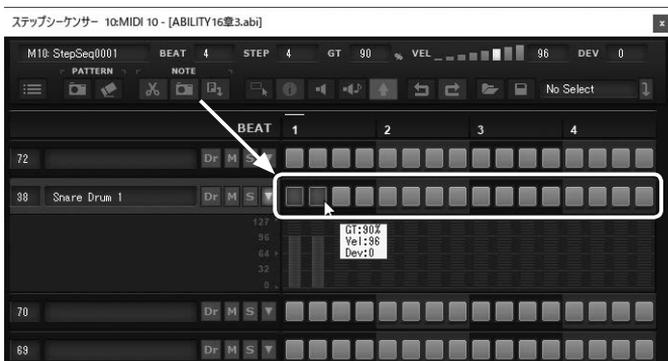
1. Line セクションの▼ボタンをクリックしてベロシティを表示します。



2. ベロシティパレットから入力したい大きさのベロシティを選択します。

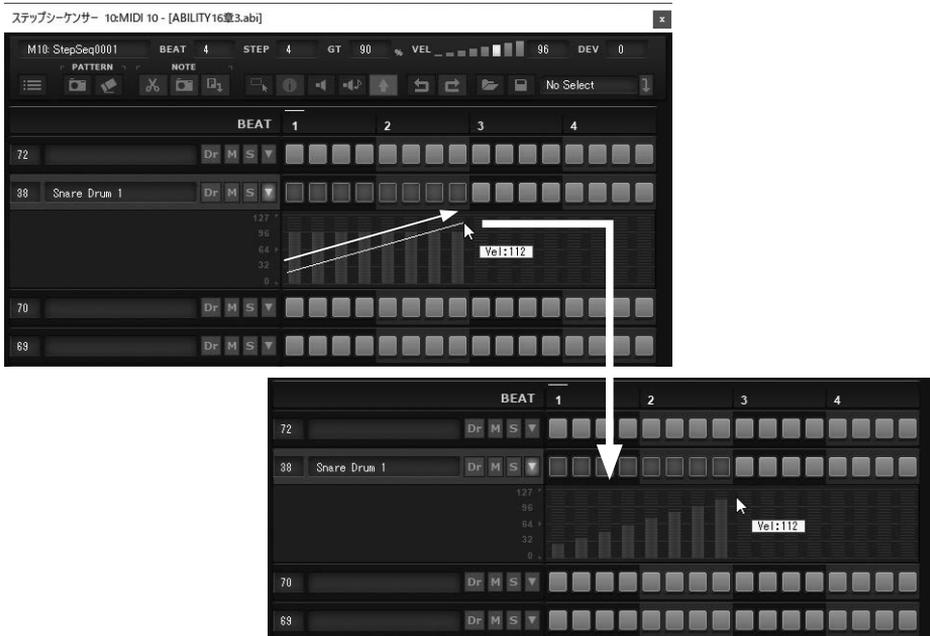


3. パットをクリックするとベロシティパレットで選択した大きさのベロシティで音が入力されます。

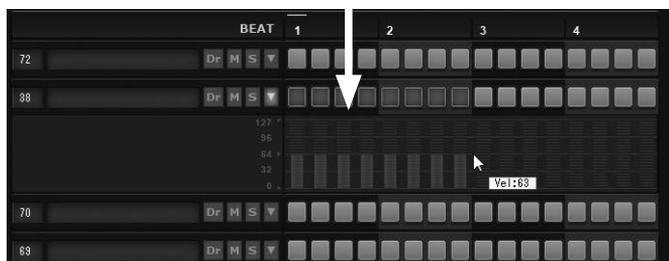


複数の音のベロシティをまとめて変更する

表示されているベロシティ欄でマウスをドラッグすることで複数の音のベロシティをまとめて変更することができます。



Shift キーを押しながらドラッグすると直線が水平になります。



HINT

すでに入力してあるパッドは、ラバーバンドでパッドをクリックして選択状態にしてから Vel パレットをクリックすることでベロシティが変更できます。また **Ctrl** + クリックでも同様にパッドを選択状態にすることができます。ラバーバンドはノートを選択するモードですので変更後はラバーバンドボタンをもう一度クリックしてラバーバンドモードを解除しましょう。



ウェーブエディタでチャンネルの入れ替えと位相反転ができるようになりました。また選択した部分だけを拡大、縮小するという機能もつき細かい波形の編集もやりやすいものになっています。

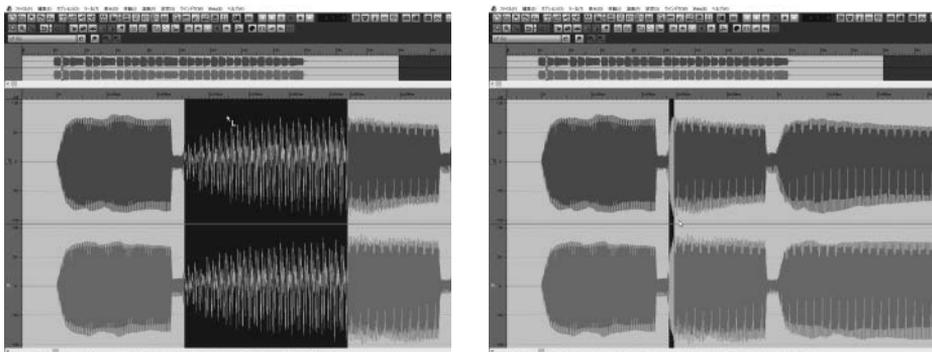
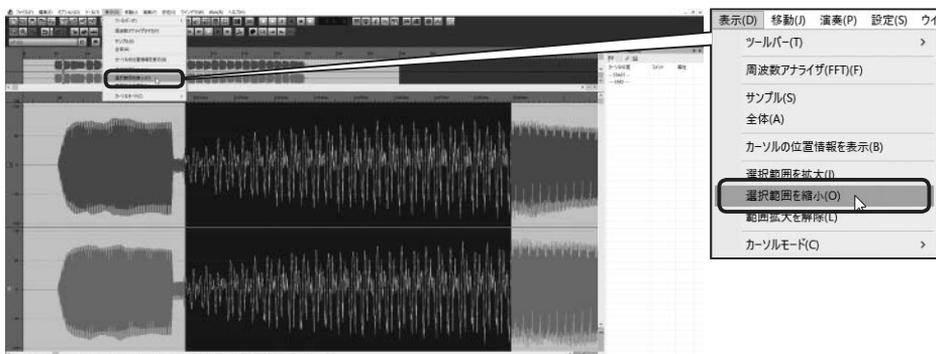
■ 選択範囲の拡大縮小

手順

1. ズームしたい範囲をドラッグして黒く選択します。
2. メニューバーの「表示」から「選択範囲を拡大」を選択すると選択範囲のみ拡大されます。くり返すとさらに拡大されます。



「選択範囲を縮小」を選択すると選択範囲のみ縮小されます。
くり返すとさらに縮小されます。



「範囲拡大を解除」を選択すると拡大縮小されたものが元の大きさに戻ります。



■ チャンネル入れ替え

ウェーブエディタで表示している波形がステレオの場合、チャンネルの入れ替えができます。チャンネルの入れ替えをするとLチャンネルとRチャンネルの波形が入れ替わります。

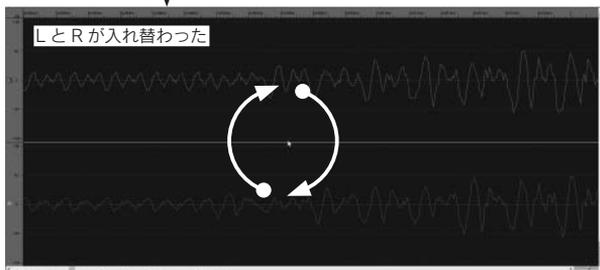
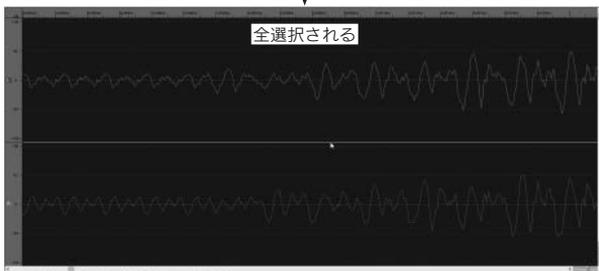
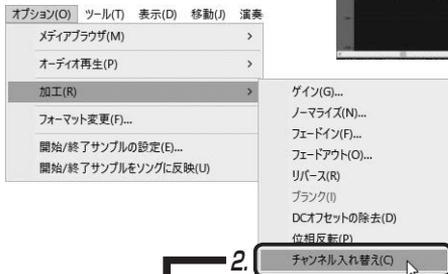
手順

1. ステレオ波形のLチャンネル、Rチャンネルの間の線の周辺をダブルクリックして全体を選択します。

1. ダブルクリック

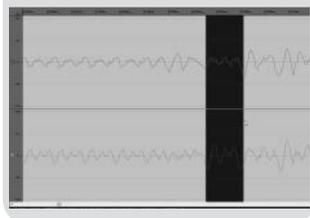


2. メニューバーの「オプション」→「加工」→「チャンネル入れ替え」を選択します。



HINT

ドラッグしてチャンネル入れ替えをする範囲を指定することもできます。

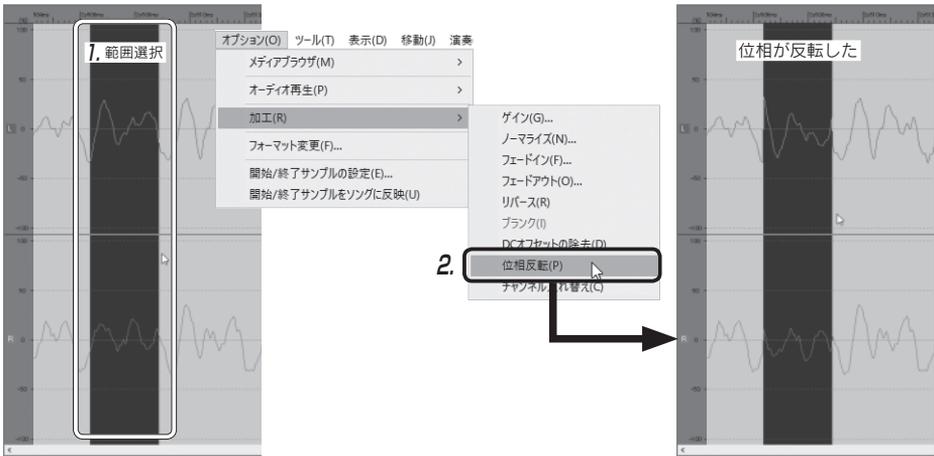


■ 位相反転

波形の位相を反転させることができます。位相を反転させると表示されている波の振れ方が上下逆になります。バスドラムやベースなどの低音楽器を重ねて鳴らした時にそれぞれの楽器の波の触れ方が逆になって音が打ち消し合いこもってしまうことがあります。そういった場合はどちらかの楽器の波形で位相を反転させることで打ち消し合ってしまうのを回避することができます。

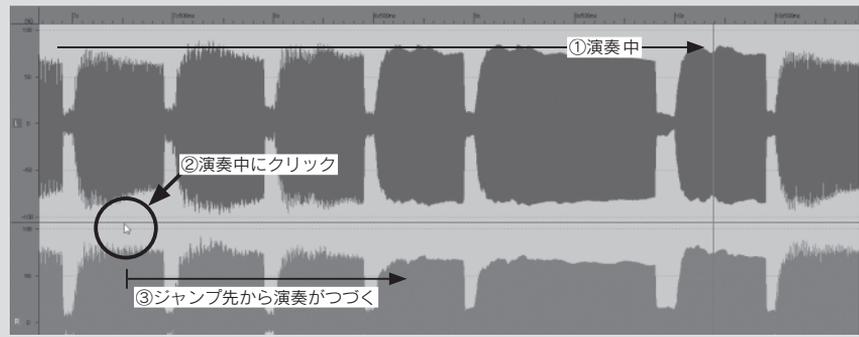
手順

1. 波形をドラッグして黒く選択します。
2. メニューバーの「オプション」→「加工」→「位相反転」を選択します。



HINT

ウェーブエディタでの演奏時 ①に波形をクリックすると ②クリックした場所にカーソルがジャンプし、ジャンプ先からつづけて演奏されます ③。範囲選択でチャンネル入れ替えや位相反転をおこなった後、部分的に演奏を確認する場合などに便利です。



強化されたミキサーの機能

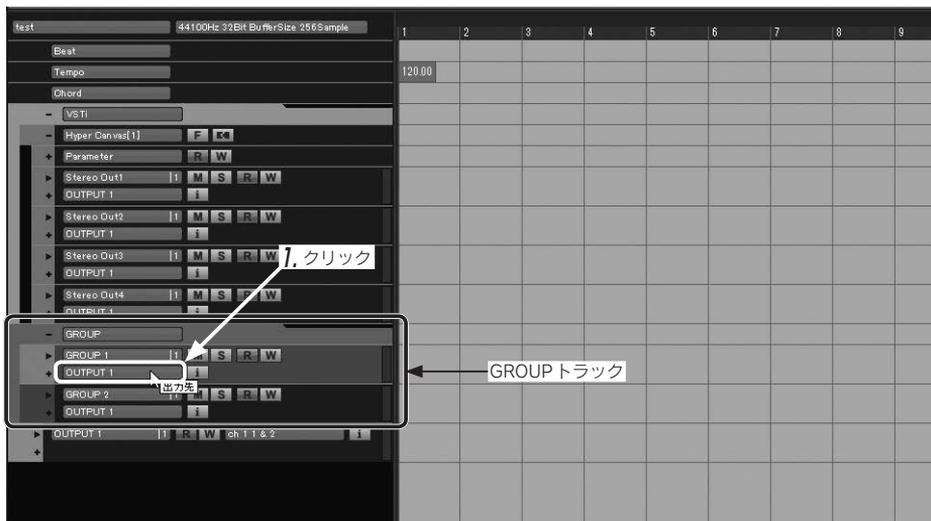
ミキサーでは二つの機能が追加されました。一つ目は GROUP トラックの出力先に他の GROUP トラックが選択できるようになりました【Proのみ】、そしてもう一つはフェーダーやツマミなどの各コントロールをマウスオーバー時にマウスホイールやキーボードの矢印キーで変更できるようになりました。

GROUP トラックの出力先に他の GROUP トラックを選択 (PRO のみ)

GROUP トラックとは通常のオーディオトラックの出力をまとめることができるトラックになります。GROUP トラックを使うことで、GROUP トラックに送られてきた音にまとめてエフェクトをかけたり、音量を操作することができます。今回の追加された機能はその GROUP トラックでまとめた音をさらに、他の GROUP トラックへ送ることができる機能になります。またまとめた先の GROUP トラックでエフェクトをかけたり、音量を調節したりと、さらにこだわった使い方ができるようになっています。

手順

1. GROUP トラックのアウトプットをクリックします。



2. 他の GROUP トラックを選択します。



HINT

GROUP トラックでまとめた音にコンプレッサーなどのエフェクトをかけると、個別のトラックごとでかけた時とくらべて出来上がりの質感が変わってきます。GROUP トラックでまとめたものにエフェクトをかけることで少し音にまとまりが出てきます。

■ マウスオーバー時の各コントロールの操作

ミキサー画面でフェーダーやツマミの上にマウスカーソルを移動させるとマウスのホイールやキーボードの矢印キーで操作できるようになりました。操作できるコントロールは上にマウスカーソルを移動させると青く光ります。その状態の時にマウスホイールやキーボードの矢印キーの操作が可能になります。この操作はミキサー画面だけでなくインスペクタに表示されたフェーダーやツマミでも同様の操作が行えます。ここでは例としてミキサー画面でボリュームフェーダーを操作する手順をご紹介します。

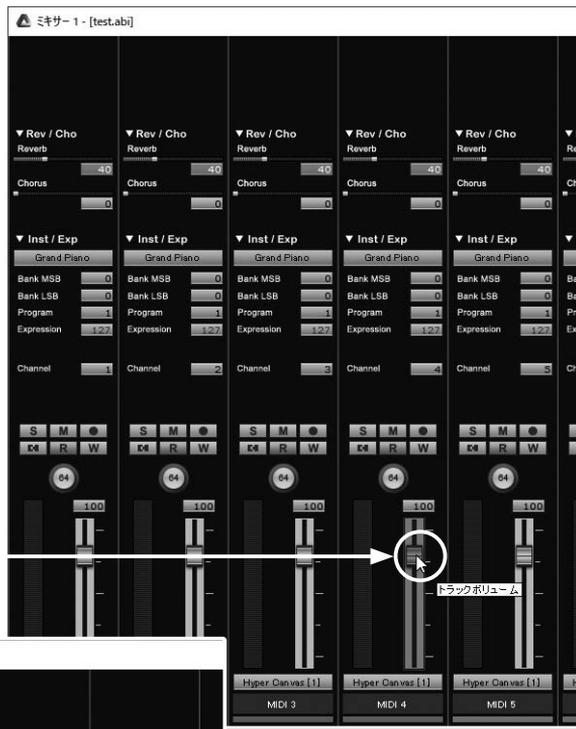
手順

1. マウスカーソルをフェーダーの上に移動させるとフェーダーが青く光ります。
2. マウスホイールを動かすとフェーダーが動きます。

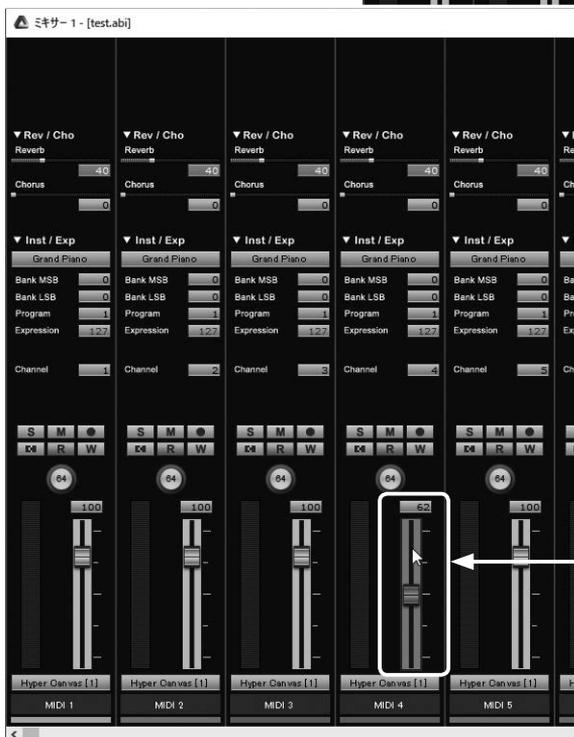
パソコンのキーボードの**矢印キー**でも操作できます。

キーボードを使う場合は、**上キー**(↑)や**右キー**(→)を押すとフェーダーが上がり、**下キー**(↓)や**左キー**(←)を押すとフェーダーが下がります。

1. 制御可能なコントローラーが青く光る



2. マウスホイールまたは
キーボードの矢印キーで調整



SECTION

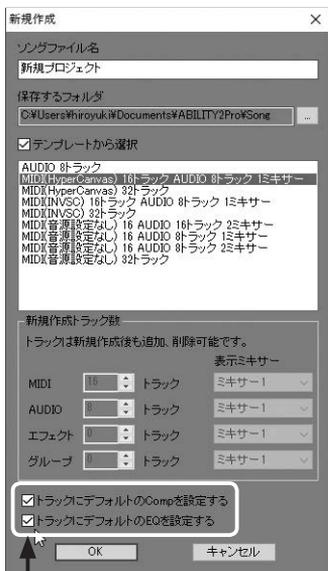
8

チャンネルストリップのEQ/COMPセクション設定

新規作成時やトラック追加時（AUDIOトラック、FXトラック、GROUPトラック）にチャンネルストリップにデフォルトのEQ/COMPを設定するかどうかを選択できるようになりました。通常ではデフォルトのEQ/COMPが設定されていますが、デフォルトのEQ/COMP以外を使いたい場合などにはこのデフォルトのEQ/COMPを外してトラックを作ることができます。またデフォルトのEQ/COMPが入っているすべてのチャンネルストリップのデフォルトのEQ/COMPをまとめてクリアする（外す）こともできます。

EQ/COMPを設定しているとOFFの場合でも、プラグインがロードされ、メモリやCPUに負荷がかかります。EQ/COMPを使用しないトラックはクリアしましょう。

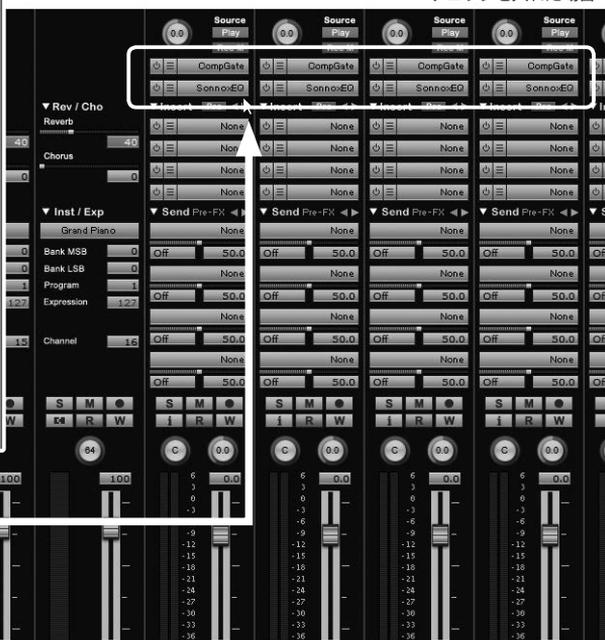
■ 新規作成時

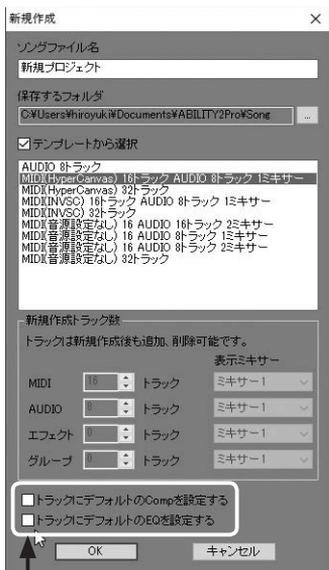


チェックする

作成されるトラックのチャンネルストリップにデフォルトのEQ/COMPを設定するかどうかを選択できます。

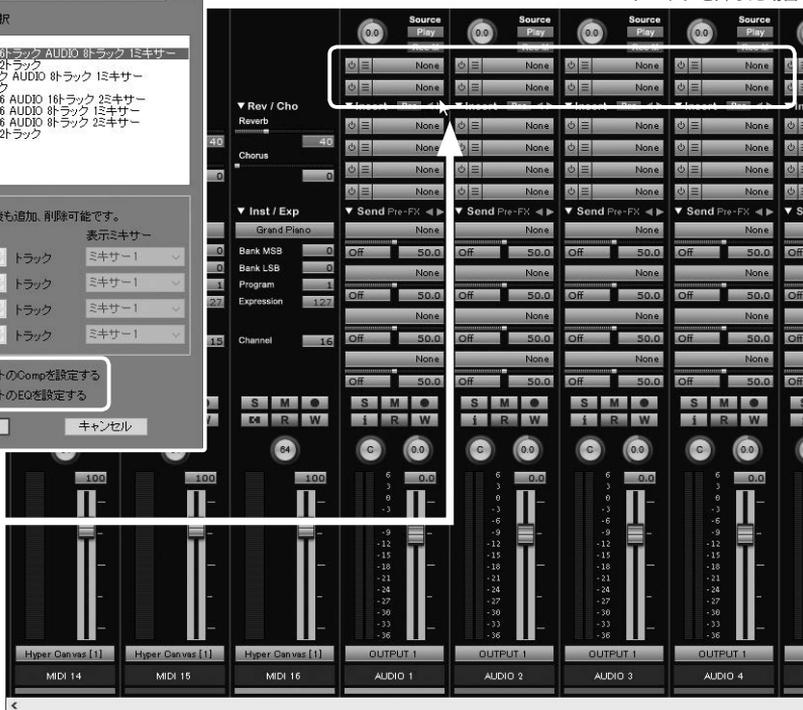
チェックを入れた場合





チェックを外す

チェックを外した場合



■ トラック追加時

追加するトラックのチャンネルストリップにデフォルトのEQ/COMPを設定するかどうかを選択できます。ここでは例としてAUDIOトラックのチャンネルストリップにデフォルトのCompだけ設定してトラックを追加する手順をご紹介します。

手順

1. トラックの下部のスペースで右クリックして表示されるメニューから「トラックの追加」→「AUDIOトラック」を選択します。
2. 「AUDIOトラックの追加」ダイアログが表示されるので、「チャンネルストリップの設定」のボタンをクリックします。
3. トラック作成時欄の「デフォルトのCompを設定する」のチェックボックスにチェックを入れ「OK」ボタンをクリックします。

4. 「AUDIOトラックの追加」ダイアログに戻ります。「追加」ボタンをクリックするとデフォルトのCOMPがチャンネルストリップに設定されてAUDIOトラックが追加されます。

1. 右クリック

1. AUDIO

2.

3.

4.

HINT
全トラック欄はここで
は設定できません。

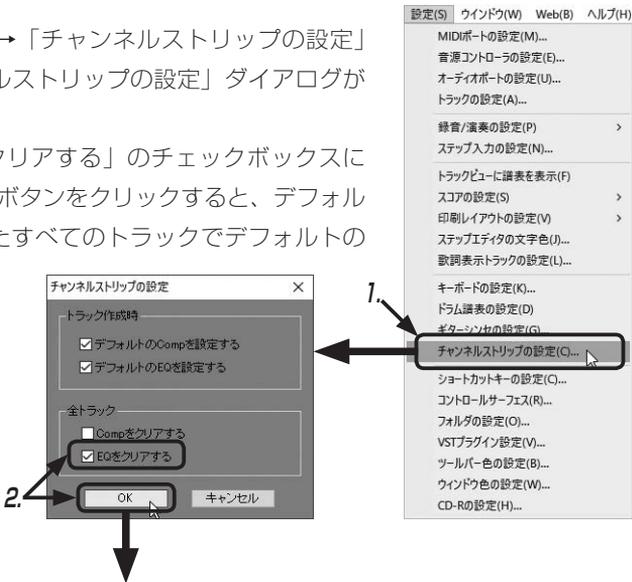
COMPが設定されてAUDIOトラックが追加された

■ デフォルトのEQ/COMP をまとめてクリア

すでに表示されているトラックのチャンネルストリップのデフォルトのEQ/COMP をまとめてクリア（外す）することができます。ここでは例としてデフォルトのEQ をクリアする手順をご紹介します。

手順

1. メニューバーの「設定」→「チャンネルストリップの設定」を選択すると「チャンネルストリップの設定」ダイアログが表示されます。
2. 全トラック欄の「EQ をクリアする」のチェックボックスにチェックを入れて「OK」ボタンをクリックすると、デフォルトのEQ が表示されていたすべてのトラックでデフォルトのEQ がクリアされます。



SECTION

9

スコアと波形が表示されるようになった
メディアブラウザのフレーズ機能

ABILITY の目玉機能でもあるメディアブラウザのフレーズにプレビュー機能が追加されました。MIDI フレーズを選択した場合はそのフレーズの譜面が、オーディオフレーズを選択した場合はそのフレーズのオーディオ波形が表示されます。これまでは試聴して音だけでフレーズを選んでいましたが、これからは音と一緒に視覚的にもフレーズを確認することができます。

■ メディアブラウザのプレビュー画面

プレビューは選択したフレーズの右側に表示されます。

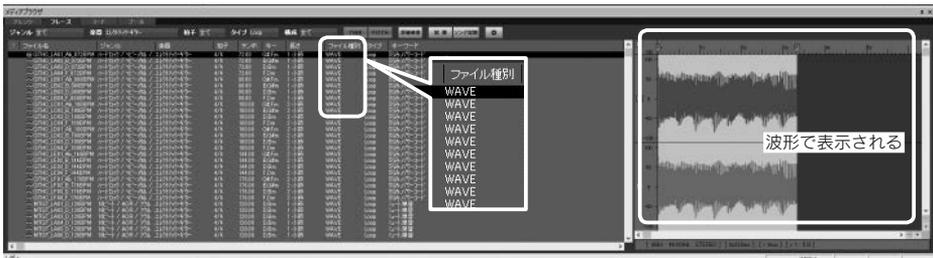
・ MIDI フレーズ選択時

フレーズが楽譜で表示されます。



・ オーディオフレーズ選択時

フレーズがオーディオ波形で表示されます。



・表示／非表示

プレビューを表示するかどうかは、フレーズのファイル名が表示されているウィンドウの上で右クリックして表示されるメニューから選択できます。プレビューを表示させたい場合は「プレビュー表示」を選択してチェックを入れておきましょう。



・大きさの変更

プレビュー画面左側の端をドラッグすることでプレビュー画面の表示する大きさを変えることができます。



・プレビュー画面を閉じる

プレビュー画面の左上の「×」をクリックするとプレビュー表示が閉じられます。



SECTION

10 コントロールレーンでの コントロール入力方法の選択

コントロールレーンでのコントロール入力方法が直線、フリーハンド、波線、曲線、水平線、ランダムから選べるようになりました【Proのみ】。またコントロールレーンの縦幅も従来の2倍まで拡大できるようになりました。コントロールレーンの縦幅の拡大はPro、Elements どちらにも対応しています。

■ コントロール入力方法の選択

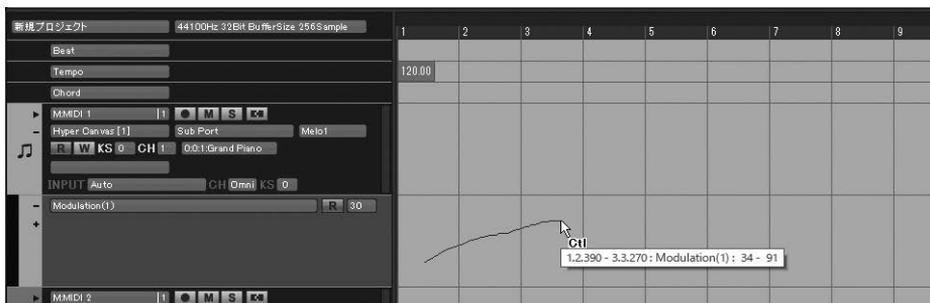
(PRO のみ)

手順

1. ツールバーのコントロール入力ボタン右の▼ボタンをクリックして表示されるメニューから入力方法を選択します。ここでは[フリーハンド]を選択しています。

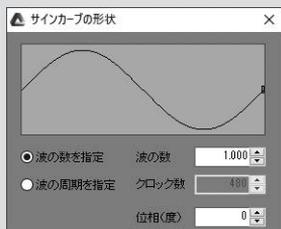
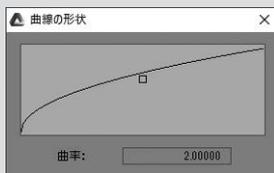


2. コントロールレーンの上でドラッグするとコントロールが入力されます。



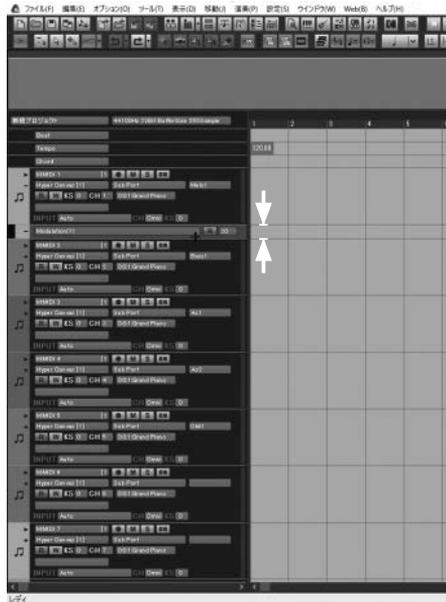
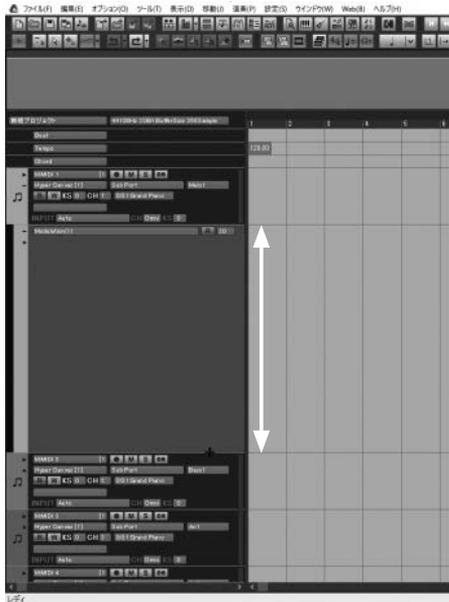
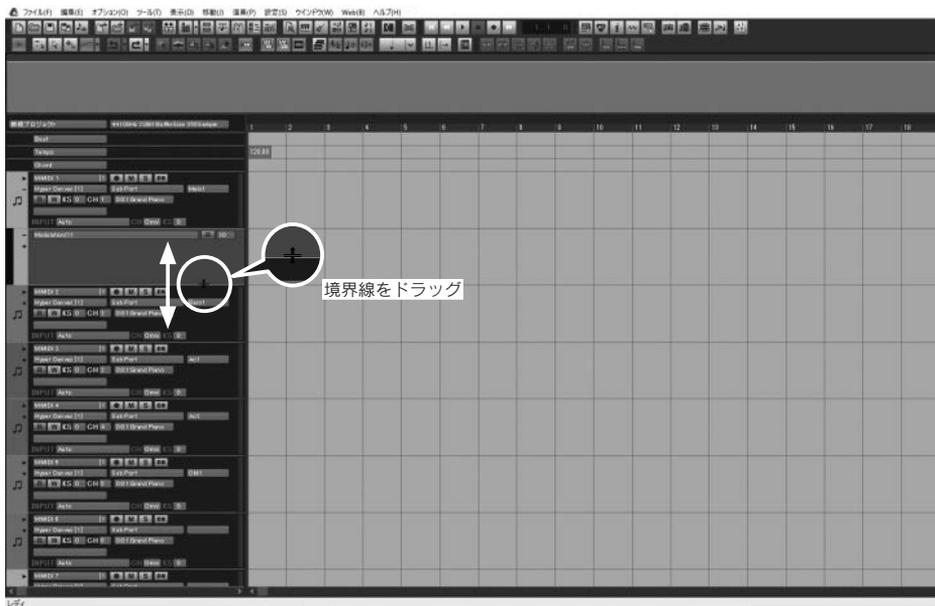
HINT

入力方法で「波線」と「曲線」を選択した場合は曲線の形状や波(サインカーブ)の数などを調整できるウィンドウが表示されます。このウィンドウで設定したものはコントロールレーンに書き込む時に反映されます。



■ コントロールレーンの縦幅の拡大縮小

コントロールレーン下部の境界線をドラッグすることでレーンの縦幅を拡大縮小できます。拡大の縦幅は従来の2倍まで大きくできます。



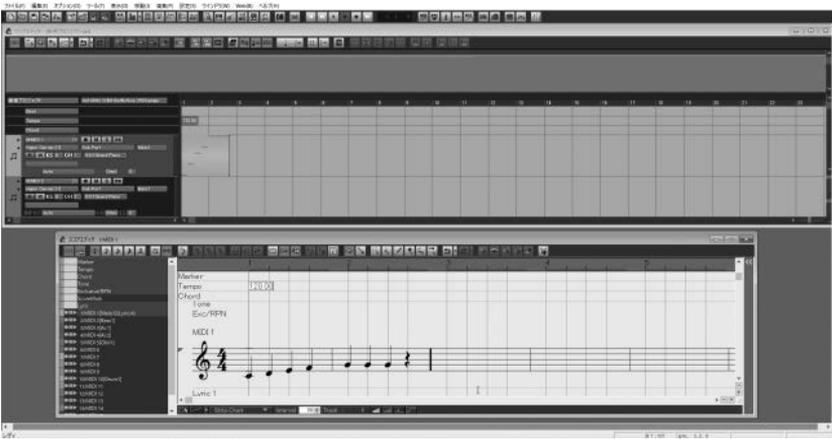
SECTION

11

前回の表示位置、サイズで開くようになった各エディター

16

ソングエディタ、スコアエディタ、ステップエディタ、ピアノロールエディタなどの各エディターは起動した時に、前回そのエディタが表示されていた位置とサイズで開くようになりました。この表示位置とサイズの記憶はプロジェクトを変えても反映されます。例えばスコアエディタやピアノロールエディタはソングエディタの下に同時に開きたいなど、自分の作業スタイルが決まっている時などには、それぞれのエディタが開く位置とサイズを決めておくことで自分が作業しやすい環境を作ることができます。

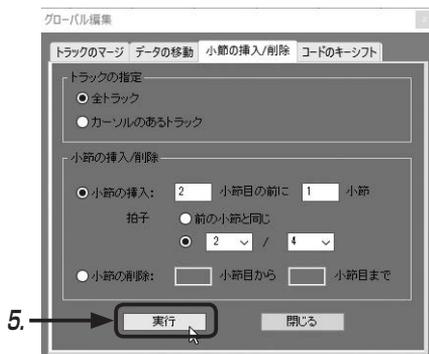
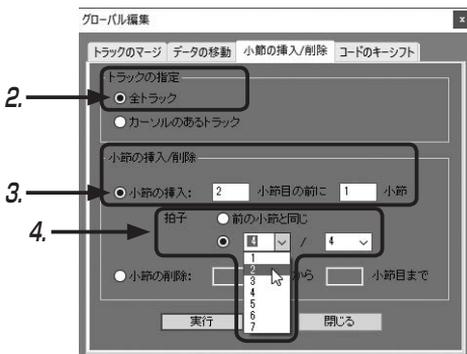


拍子を設定して小節を挿入する

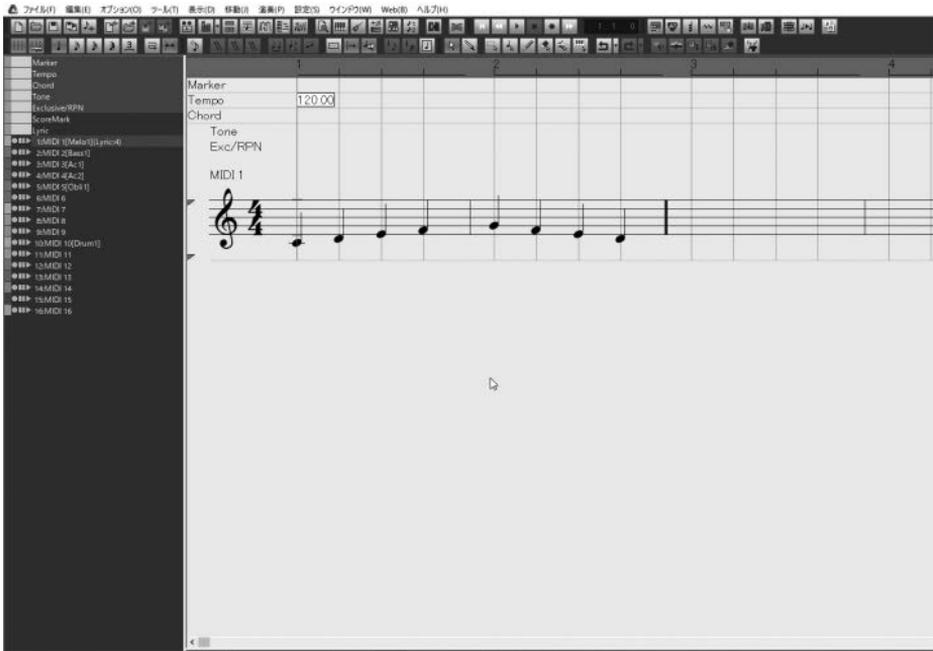
グローバル編集で全トラックに小節を挿入する際、拍子を設定して挿入することができるようになりました。例えば2/4拍子を1小節だけ追加したいなど、楽曲の途中で拍子が変わる小節を追加する時にとっても便利な機能です。ここでは例として4/4拍子の楽曲で2小節目に2/4拍子を1小節挿入する手順をご紹介します。

手順

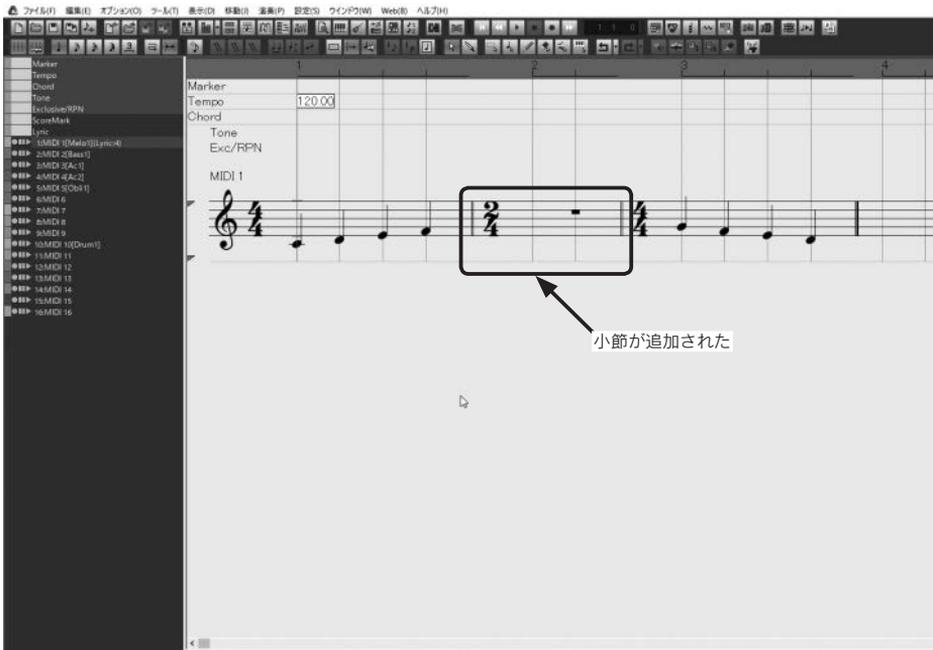
1. メニューバーの編集から「グローバル編集」→「小節の挿入/削除」を選択すると「グローバル編集」ダイアログが表示されます。
2. トラックの指定欄から「全トラック」を選択します。
3. 小節の挿入/削除欄から、小節の挿入: 「2」小節目の前に「1」小節と入力します。
4. 拍子のチェックボタンをクリックして選択して、プルダウンメニューから拍子を選択します。
5. 「実行」ボタンをクリックすると拍子が設定された小節が挿入されます。



変更前



変更後

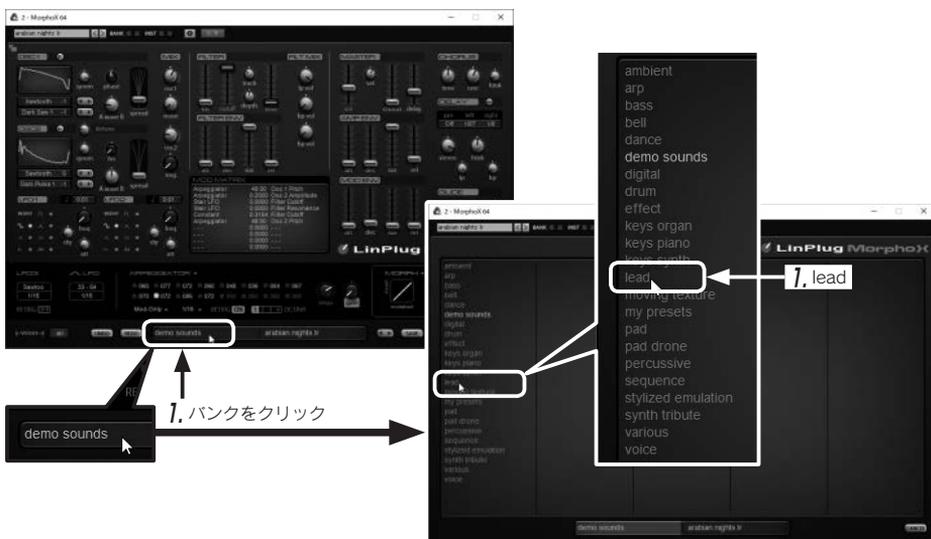


■ LinPlug MorphoX

2つの音色をモジュレーションホイールを使ってモーフィングすることができるシンセサイザーです。モーフィングでは2つの音色間で音量がクロスフェードされるだけでなく、ある音色から異なる音色へと音色が変化していきます。ここではプリセットから音色を選び、モジュレーションホイールを使ってモーフィングさせる手順をご紹介します。

手順

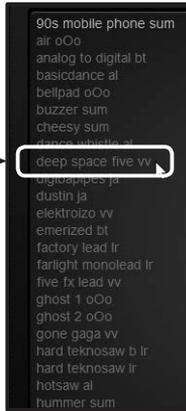
1. シンセエディター画面下部のバンクをクリックしてバンクを選択します。ここでは例として「lead」をクリックして選択します。



2. バンクを選択するとパッチを選択する画面に移ります。一覧から音色を選択します。ここでは例として「deep space five vv」をダブルクリックして選択します。

3. シンセエディター画面右下の「MORPH」の「LINK」ボタンをクリックして点灯させます。

2. ダブルクリック



3. LINK を点灯

lead deep space five vv

4. MIDI キーボードで鍵盤を弾くなどしてシンセの音色を鳴らしながら、画面のホイールをマウスでドラッグすると A の音色から B の音色へとモーフィングして音色が変化していきます。



4. ドラッグ

モーフィングの調整

ホイール左側にあるグラフのような部分をマウスでドラッグすることでモーフィングの変化のカーブを調整できます。直線ではリニアに変化していきます。



右下にドラッグしてカーブさせると①、Aからゆっくり変化していきBになるにつれて変化のスピードが上がります。

左上にドラッグしてカーブさせると②、Aで急に变化したあと、Bになるにつれてゆっくり変化していきます。

HINT

max ツマミと min ツマミではモジュレーションホイールによる変化の幅を設定できます。max ツマミを右いっぱい、min ツマミを左いっぱいにして状態変化の幅が最大になります。

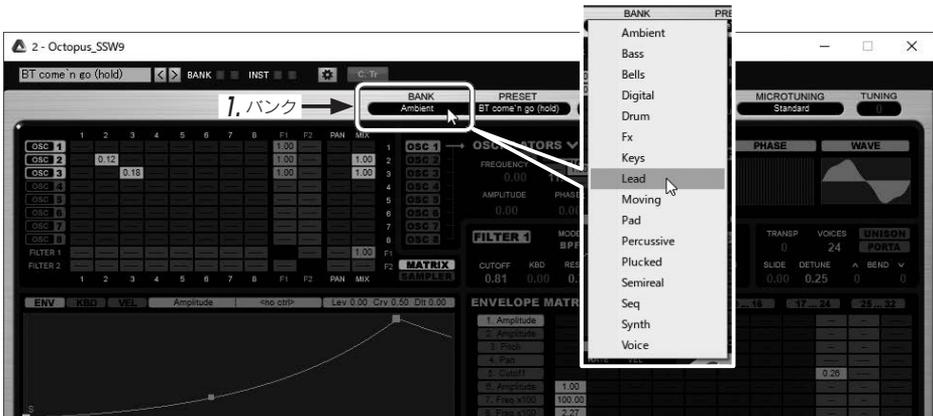


LinPlug Octopus

8つのオシレータを持つデュアルマトリクス方式のシンセサイザーです。FM音源の煌びやかな音色から複雑な音色まで作り出すことができます。FM音源の音作りは難しいイメージがありますが、Octopusには即戦力で使える数多くの音色がプリセットで用意されています。ここではプリセットの音色の読み込み方をご紹介します。

手順

1. シンセエディター画面上部のバンクをクリックしてバンクを選択します。ここでは例として「lead」をクリックして選択します。



2. パッチから音色を選択します。ここでは例として「BT analog lead (vel+at)」をクリックして選択します。

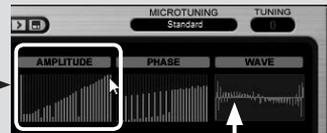


HINT

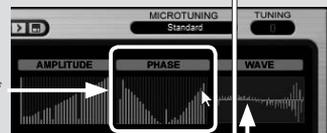
オシレータエディタにある Amplitude と Phase をドラッグして音色を変化させることができます。Amplitude は各オシレータの音量、Phase はウェーブフォーム中の開始点を変化させます。MIDI キーボードなどの鍵盤を弾いて音を出しながらマウスでドラッグすることで音色の変化を聞きながら音色を作っていくことができます。音色の変化は WAVE に表示される波形でも確認できます。



Amplitude をドラッグ



Phase をドラッグ



WAVE : 波形 (音色) が変化する

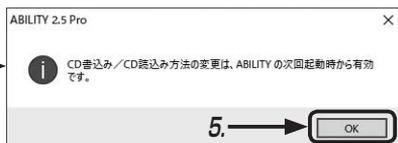
SPTIモードやDDP出力に対応したCD作成機能

CD作成機能をプレイリスト化できるようになりました。またCD-TEXTのサポートやトラック毎に異なったGAP(曲間)の設定ができるSPTIモードが追加されました。さらにPro限定ですが、CDプレス時のフォーマットであるDDPでの出力や、ISRC / EANの設定も行えます。

SPTIモードへの切り替え方法

手順

1. メニューバーの「設定」→「CD-Rの設定」を選択するとCD-R設定ダイアログが表示されます。
2. 「SPTIを使用する」のチェックボタンをクリックしてチェックを入れます。
3. 「曲間(プリギャップ)の初期値」欄の▲▼をクリックして曲間の秒数を決めます。
4. 「OK」ボタンをクリックすると「CD書き込み/CD読み込み方法の変更は、ABILITYの次回起動時から有効です。」というメッセージのダイアログが表示されます。
5. 「OK」ボタンをクリックしてダイアログを閉じたのち、ABILITYを再起動するとSPTIモードへ切り替わります。



ABILITYの再起動後、再度手順1でCD-R設定ダイアログを表示すると、SPTIモードになっていることが確認できます。

HINT

「SPTIを使用する」を選択することでCD作成時に設定したCDタイトル、CDアーティスト、曲タイトル、曲アーティスト情報がCD-TEXTとして反映されます。「Windows Media Playerの機能を使用する」ではCD-TEXTは反映されませんので気をつけましょう。

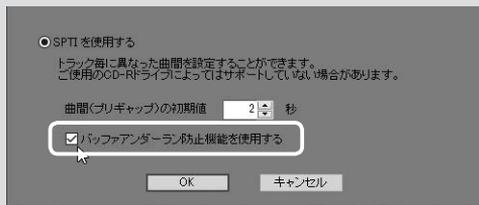
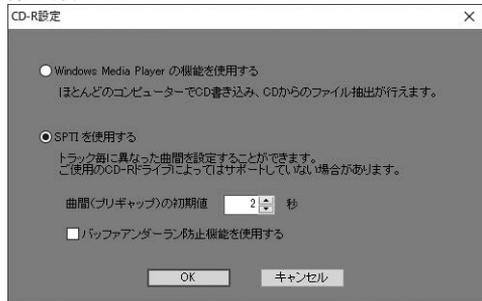
HINT

「バッファアンダーラン防止機能を使用する」にチェックを入れることでCD-Rの書き込み時に起きることがあるバッファアンダーランというエラーを回避することができます。バッファアンダーランはCD-Rにデータを書き込む時にバッファのデータ転送が途切れてしまっておこるエラーです。

この機能が有効になるのはBurnProofという技術をサポートしているCD-Rドライブのみになります。

BurnProofはバッファのデータ転送が少なくなったところで書き込み作業を一時停止し、転送量が戻ったところでまたその場所から再開し途切れないように書き込みができるようにした技術です。

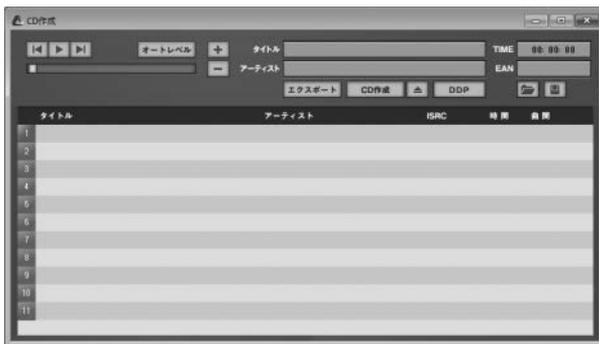
再起動後



CD作成機能

手順

1. メニューバーの「ツール」→「CD作成」を選択するとCD作成ダイアログが表示されます。



2. 「+」をクリックすると開くダイアログが開きます。
3. 開くダイアログで読み込みたい曲を選択し、「開く」をクリックするとリストに読み込まれます。
4. 読み込み後は開くダイアログ右上の「×」をクリックして閉じます。



HINT

曲を削除する場合は、曲のナンバーをクリックして選択すると赤くなるので、その状態で「-」をクリックすると、選択されているリストナンバーの曲がリストから削除されます。



HINT

リストの曲は曲名をドラッグすることで順番を入れ替えることができます。



5. CD タイトル、CD アーティスト、曲タイトル、曲アーティスト情報などを入力します。



HINT

SPTI モードに切り替えていないと CD 作成時や DDP 出力時にこれらの情報は反映されないので気をつけましょう。

6. 「CD 作成」 ボタンをクリックすると CD への書き込みが始まります。

HINT

EAN (商品識別コード) と ISRC (国際標準レコーディングコード) の入力は Pro のみ対応しています。コードはそれぞれを管理する団体などで別途取得する必要があります。

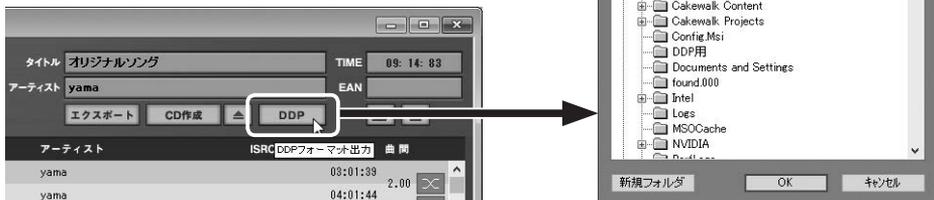


DDP への出力

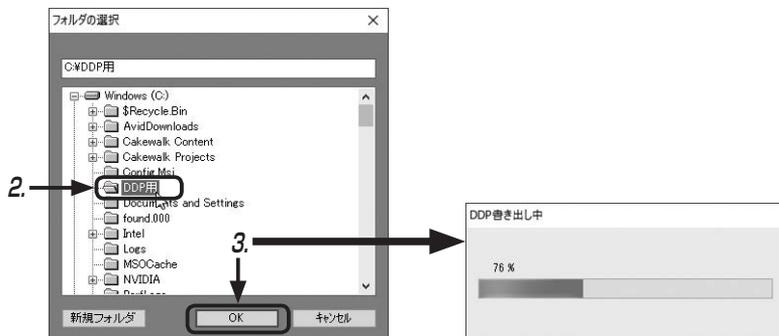
(Pro のみ)

手順

1. 「DDP」 ボタンをクリックするとフォルダの選択ダイアログが表示されます。

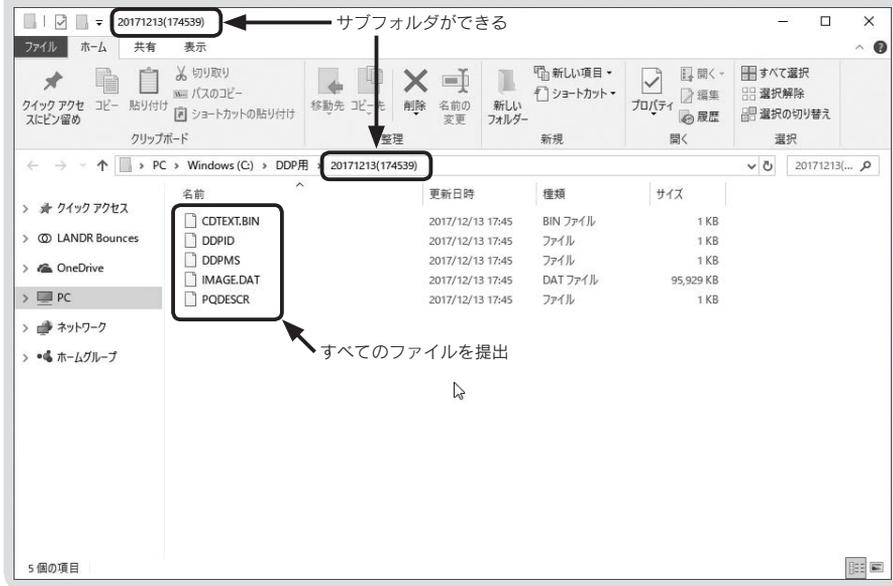


2. DDP を出力するフォルダを選択します。
3. 「OK」 ボタンをクリックすると DDP で出力されます。



HINT

DDP 出力すると yyyyymmdd (時間分秒) 「例 20171223 (123045)」サブフォルダが作成されます。DDP ファイルはその中に作成されます。プレス業者に DDP で渡す場合はサブフォルダの中にあるすべてのファイルを提出しましょう。



最後までお読みいただきありがとうございました。バージョンアップした ABILITY2.5 の新機能はいかがでしたでしょうか？ 皆様の楽曲制作にこれらの機能もご活用していたければ幸いです。

◎著者紹介

平賀 宏之 (ヒラガ ヒロユキ)

1974年生、ローランド・ミュージック・スクールで作編曲、コンピューターミュージックを学ぶ。作編曲、シンセサイザーのマニピュレーター、DAWソフト攻略本の執筆、さまざまなDAWの認定講師としてセミナーなど各方面で活動中。また、ローランド・ミュージック・スクール講師資格の認定オーディションや各種研修会も担当し後進の育成にも力を注ぐ。インターネットを使ったオンラインミュージックスクール オトマナビ代表、MIDI検定資格指導者、ローランド・ミュージック・スクール指導スタッフ講師、トート音楽院講師。

著書に「イチからはじめる Singer Song Writer Lite 9」「まるごと SONARガイドブック」(共にスタイルノート刊)。

◎ オンラインミュージックスクール オトマナビ

インターネットを使ってご自宅にいますまレッスンが受講できる音楽教室です。画面を共有して受講者さまの音楽ソフトを操作しながらおこなう「インターネットレッスン」と、受講者さまが作られたオリジナル作品(作詞、作曲)の添削をメールでおこなう「作品添削」があります。

受講者さまのペースで空いた時間、学びたい時に学ぶことができます。

<http://www.otomanavi.com/>

ABILITY についてのお問い合わせ先

■ 製品の詳細

以下ホームページでご確認ください。お問い合わせ先も案内されています。

<http://www.ssw.co.jp/>

■ 製品購入後のお問い合わせ

詳細は次の URL からご参照ください。

http://www.ssw.co.jp/support/contents/support_access/

または、製品に付属のマニュアルに記載されているユーザーサポート窓口までお問い合わせください。

この PDF は、スタイルノートから発売されている書籍『ABILITY 2.0 ガイドブック』(ISBN978-4-7998-0151-2)の発売後に発表された ABILITY 2.0 のマイナーバージョンアップ版、バージョン 2.5 までの新機能を中心に、書籍の補足説明をしたものです。

アビリティ ABILITY 2.0 ガイドブック 〈バージョン 2.5 差分〉

——基本操作から使いこなしまで

発行日 2017 年 12 月 24 日 第 1 版

著者 ひらぎ ひろゆき
平賀宏之

発行人 池田茂樹

発行所 株式会社スタイルノート

〒 185-0021

東京都国分寺市南町 2-17-9 ARTビル 5F

電話 042-329-9288

(ABILITY に関するお問い合わせは、上記をご確認ください)

E-Mail books@stylenote.co.jp

URL <http://www.stylenote.co.jp/>

協力・公認 株式会社インターネット

表 丁 又吉るみ子

© 2017 Hiroyuki Hiraga Printed in Japan

書籍 ISBN978-4-7998-0151-2 C1004

本書の内容に関する電話でのお問い合わせには一切お答えできません。メールあるいは郵便でお問い合わせください。なお、返信等を致しかねる場合がありますのであらかじめご承知置ください。

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部または一部のコピー、再スキャン、再デジタル化等の無断複製や二次使用は著作権法上での例外を除き禁じられています。また、購入者以外の代行業者等、第三者による本書の再スキャンや再デジタル化は、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。